

1. 研究課題名：D-1007 高人口密度地域における孤立した霊長類個体群の持続的保護管理

2. 研究代表者氏名及び所属：
古市剛史（京都大学霊長類研究所）



3. 研究実施期間：平成 22～24 年度

4. 研究の趣旨・概要

ヒト以外の霊長類は、すべて人口密度の高い中・低緯度地域に住んでいる。そのためヒトとの共存を余儀なくされ、農地の拡大や森林伐採によって生息地が分断化されている。

このような地域個体群の多くは、孤立による遺伝的劣化などによって存続が危ぶまれており、どのようなまとまりとして地域個体群を残すべきかを明らかにする生態学・集団遺伝的研究が求められている。また、人からうつる人獣共通感染症による大量死がしばしば起こっており、野生個体群の健康状態のモニタリングとリスク管理のための研究が急がれる。

これらの研究成果を、20 年後の世界に多くの霊長類種が存続可能な状態で残る道筋をつけることを究極的な目標として、各地の保護管理計画に結びつけることを目指している。

5. 研究項目及び実施体制

- ①最小存続可能集団の定義にむけた孤立個体群の生態学的・集団遺伝学的研究（京都大学）
- ②孤立個体群における人獣共通感染症のリスクアセスメントとサーベイランス（京都大学）
- ③孤立個体群の現状分析と生息地の維持・回復のための生態学的・社会学的研究（京都大学）

6. 研究のイメージ

